

今週（12月2日から12月6日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、2日にTB3M物の発行・償還、2年債の発行、4日に税揚げ・10年債の発行、6日に30年債の発行等の資金不足要因が多かった。加えて、月末要因の剥落や、積み期間後半に入ったことなどから、邦銀・証券業態を中心とした、取り手の調達意欲が先週に引き続き旺盛で、レートは日を追うごとに強含みの展開となった。3日積みとなる6日は、邦銀・証券業態からの調達で▲0.010～▲0.005%のレンジで出合うなど、過熱感の強いマーケットとなった。今週の無担保コールO/N物の加重平均レートは、▲0.03%前半から▲0.00%台まで上昇するなど、非常に強い地合いであった。ターム物の出合いは、四半期末越の取引を行えない先が多く、期内物のショートタームで散発的な出合いが見られた程度で、閑散な取引であった。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは6日に2W物（9日スタート・27日エンド）・15,000億円と1日物・30,000億円がオファーされた。2W物は5,757億円（期落ち額6,216億円）と札割れとなった。1日物には応札が無かった。1日物は、今年の3月8日と同様、無担保コールレートがこのところ上昇していたため、短期金利がプラス圏とならない様、オファーされたと考えられる。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.050～▲0.015%程度の水準で推移した。週の後半にかけてレートを切り上げた。SC個別銘柄では、5年136～141、10年336～356、20年166～170、30年59～64、40年9～12などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、債券相場全体が軟調に推移する中、ファンディングレートも上昇したこともあってか、3M物を中心に閑散ながらも弱含む展開となった。出合いは、週半ばまでは3M物で▲0.150%程度が見られていた。

3日に実施された短国買入オペは、1,000億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.035%、按分落札利回較差+0.035%と、在庫調整の売りからか、弱めの結果となった。

6日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.135%から出合いはじめ、▲0.1425%まで出合う展開となったものの、足元の需給が良くないことを反映してか、平均落札利回▲0.1187%、按分落札利回▲0.0986%と、テールが大きく流れる結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、2日こそ入札案件が無かったものの、その後は鉄鋼・機械業態を中心に多くの大型案件が散見され、月の初旬としては活況なマーケットとなった。週間発行総額は8,000億円程度と償還額4,500億円程度を上回った。先月末から、配当金・賞与・税対応等と見られる発行が数多く見られており、5日には市場発行残高は約21.6兆円に達するなど、リーマンショック以前の22兆円台も視野に入っている。リーマンショック前はABCPや金融法人の発行が活発であったが、現在ABCPは当時のおよそ1/4、金融法人は同1/2程度の水準まで発行残高が縮小している中、ノンバンク業態の残高が当時の1.5倍程度と大きく伸長している。この様に、ノンバンクを中心とした事業法人によるCP活用の積極化が市場残高の伸びを牽引している。発行レートについては、0%近辺での買い手は数多くいるものの、大型かつ期近物の案件についてはレートの上昇が複数散見された。

3日にはCP等買入オペが3,000億円オファーされた。今月はオファー回数が3回あり、オファー額もそれぞれ3,000億円と多いものの、今回は高レートでの応札可能銘柄が多かったため、入札結果は平均落札レート0.005%・按分レート▲0.001%と、前回（平均0.001%・按分▲0.002%）比で平均・按分共に上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 （億円）
12/2（月）	23,529.50	△ 0.050	109.66	△ 0.031	△ 0.042	4,018,500
12/3（火）	23,379.81	△ 0.025	109.13	△ 0.028	△ 0.050	4,000,000
12/4（水）	23,135.23	△ 0.040	108.55	△ 0.025	△ 0.050	3,923,700
12/5（木）	23,300.09	△ 0.045	108.86	△ 0.017	△ 0.032	3,921,000
12/6（金）	23,354.40	△ 0.019	108.78	△ 0.009	△ 0.032	3,916,700

来週（12月9日から12月13日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
12/9 (月)	7-9月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 10月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 11月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	TB6M 23,000億円 12/10発行			
12/10 (火)	11月のマネーストック(日銀 8:50) 10月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	5Y 19,000億円 12/11発行	エネルギー 対策借入 6,000億円 12/20借入		米FOMC(1日目)
12/11 (水)	11月の企業物価指数(日銀 8:50) 10-12月期の法人企業景気予測調査季報(内閣府・財務省共管 8:50)				米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 11月の米財政収支 11月の米消費者物価指数
12/12 (木)	岡山県金融経済懇談会において雨宮副総裁講演 10月の機械受注統計(内閣府 8:50)	流動性供給 5,000億円 12/13発行	交付税借入 10,500億円 12/20借入		ECB定例理事会(金融政策発表) 11月の米生産者物価指数
12/13 (金)	12月調査の日銀短観(概要及び要旨,日銀 8:50)	TB3M 43,200億円 12/16発行			11月の米小売売上高 10月の米企業在庫

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
12/9 (月)	▲ 700	▲ 2,700	▲ 3,400	国債買入 全店共通 CP買入 社債買入 国債補完	▲ 6,200 ▲ 100 ▲ 300 600	11,900 5,800	11,700	8,300	TB3M発行▲43200償還41400
12/10 (火)	▲ 1,000	▲ 5,000	▲ 6,000				0	▲ 6,000	TB6M発行▲23000償還16200
12/11 (水)	▲ 2,000	▲ 22,000	▲ 24,000				0	▲ 24,000	5Y発行▲19000
12/12 (木)	▲ 2,000	2,000	0				0	0	源泉税揚げ
12/13 (金)	▲ 3,000	67,000	64,000				0	64,000	年金定時払い 流動性供給▲4000 交付税借入▲10500期日10500
週間合計	▲ 8,700	39,300	30,600	—	▲ 6,000	17,700	11,700	42,300	

12/9は日銀予想、12/10以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、今積み期間の最終週となることから、引続き堅調な地合いが予想される。レポ市場は、GC T/Nは参加者のスタンスに大きな変化がなければ、引き続きレートは横ばい圏で高めの推移が続くと考えられる。短国市場は、9日に6M物、13日に3M物の入札が実施予定となっている。6日の3M物が大きく流れる結果となった中、2回の入札がレート水準にどう影響を与えるか、注目される。CP市場は、13日にCP等買入オペが3,000億円で実施予定となっている。年末最後のオペ（25日実施）に向けてレートが低下していくと考えられるが、3日の応札額が9,652億円と今年最高となるなど、業者の在庫は潤沢であるため、レート低下の幅は限定的と思われる。

主要なイベントとしては、国内では9日に7～9月のGDP 2次速報、13日に日銀短観、海外では10～11日にFOMC、11日に11月の米消費者物価指数、12日にECB定例理事会が予定されている。また、2019年12月～2020年2月積み期間に適用される、日本銀行当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率が9日の17時に公表される予定となっている。基準比率（現在37.0%）は3.0%減少の34.0%程度が見込まれる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入